

令和6年6月1日

沖縄県文化財課  
課長 瑞慶覧 勝利 殿  
沖縄県立博物館・美術館  
館長 里井 洋一 殿

琉球大学名誉教授  
永津 禎三

### 返還された御後絵の保管・保存について

この度、御後絵をはじめ、盗難文化財が沖縄に返還されたことは誠に喜ばしいことであり、返還に至るご努力に対しては敬意を表します。

ただ、返還後の御後絵について、報道を通じて得られる情報から、大変に危惧すべき状況があり、ここに、書面にて回答を要望いたします。

ただの杞憂であれば幸いです。危惧する事項を述べ、質問をいたしますので、文化財課と沖縄県立博物館・美術館とで緊密にご協議いただき質問について誠意ある回答を下さるようお願いいたします。

### 記

一、

5月24日付沖縄タイムス及び琉球新報で返還文化財保存修復検討委員会の開催が報じられている。その記事及び掲載写真では、尚敬王の御後絵を博物館・美術館実習室と思われる場所で、実習机を並べただけと思われる台の上に拡げているように見える。

尚清と思われる御後絵の4月30日の公開時にも、その取り扱いの乱暴さに驚いたが、より脆弱だと報道されている尚敬王の御後絵についても、ほぼ変わらない扱いがされているように見える。

巻かれていた脆弱な御後絵を一旦開いたら、それだけでも絵具の剥離や繊維の破損が生じると容易に推察できる。これを巻き戻すなど常識上あり得ない。

拡げたり、巻いたりを繰り返すのは、御後絵の破損を繰り返す行為に他ならない。

脆弱な尚敬王と尚育王の御後絵については、委員会開催までに慎重に拡げられ、これを拡げたまま収納する保管箱が当然準備されていなければならなかったはずだが、簡易的な

台の上にただ拡げられていたことが報道写真で分かる。

常識として、脆弱な軸物を巻き戻すことはあり得ないので、この拡げられた場所（実習室と推察）でそのまま保管するしかないと思われるが、この場所で保管するにあたって、必要な部屋の処置はされているのだろうか。

この場合、保管箱が準備できるまでの長期間、この場所が実習室であれば使用禁止になると推察されるが、博物館・美術館館長にも、このような実習室の管理に対して責任が生じると思われる。

あり得ないことではあるが、もしも、御後絵が委員会終了後に巻き戻されてしまっているとしたら、それによって生じた破損についての責任は誰がどう取るのであろう。

#### 【質問】

1. 第1回返還文化財保存修復検討委員会が開催されたのはどこか
2. 開催場所は御後絵の保管・保存に問題のない場所であったのか
3. 委員会開催までに保管・保存の担当学芸員は何を準備したのか、それは十分な準備であったか
4. 委員の中に保管・保存の専門家はいらっしゃるのか、いらっしゃった場合、その委員からこの委員会での御後絵の扱いについて、また、今後の対応についてどのような意見が出されたか
5. 委員の中に保管・保存の専門家がいらっしゃらなかった場合、各委員からは、この委員会での御後絵の扱いについて、また、今後の対応についてどのような意見が出されたか
6. 委員会終了後、御後絵は巻き戻されたのか、そのまま拡げられているのか
7. 御後絵は現在、どこにあるのか

#### 二.

次に危惧するのは委員会の組織である。新聞の報道写真から、委員は、湊信幸氏、早川泰弘氏、荒井経氏、田名真之氏、森達也氏が確認できる。前項で質問したように、これらの方々以外に保管・保存の専門家がいらっしゃるのでしょうか。

確認できた方々のうち、湊信幸氏、早川泰弘氏、荒井経氏については、琉球王国文化遺産集積・再興事業で絵画の監修者として責任を果たされ、立派な実績をお持ちで申し分のない方々であるが、田名真之氏、森達也氏がなぜ選ばれているのか、私には全く信頼に値しない人物であり、信じられない。

森達也氏は、沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館企画展「琉球の芸術・文化に魅せられて―鎌倉芳太郎と首里城」において、「寸法記」の解説文が差し替えられた事件につ

いて、文書で説明を求めているにもかかわらず、一切無視し続ける附属図書・芸術資料館長である。

田名真之氏は、大龍柱問題に関する発言について博物館・美術館館長に相応しくないと私から説明及び辞職要求を突きつけたにもかかわらず無回答のまま職に居座り続け、その後、平良孝七展で問題を起こしたとたん責任を放棄して退職し、現在、「平良孝七展に係る調査委員会」でその責任を検証されている最中の人物である。その人物を委員に、ましてや、事もあろうに委員長とする人事とは何なのだろうか。

これまで関わってきた、教育庁関係の委員会組織では、担当の課が委員長の原案を作り、委員会初日に合議で委員長を選出する際に原案を提示するのが慣例となっていると思う。田名真之氏を委員としたこと、さらに委員長として推薦したことについて、文化財課の見識が大いに疑われる。

#### 【質問】

1. 前項と重なる質問になるが、保管・保存の専門家の委員はいらっしゃるのか、いらっしゃるならどなたか
2. 現在、第三者委員会でその責任を検証されている最中の人物である田名真之氏を委員に加えたこと、さらに委員長にまで推薦したのは何故か

さらに、より根本的な問題として、危惧されるのが、文化財課と博物館・美術館の連携の無さである。御後絵は、現実に博物館・美術館にあり、その施設を利用して保管されている。にも関わらず、御後絵に関しては文化財課のみが関わり、博物館・美術館の関与を拒否しているようにさえ見える。

博物館・美術館には多くの収蔵品もある。それらに御後絵を持ち込んだことで被害が生じないか、現在の連携の悪さから、大いに危惧するものである。

ことは、沖縄の文化財の歴史上、最大の出来事ともいえる「御後絵の返還」にあたり、この貴重な文化財をどう守っていくのか、組織の壁を越えて、一致協力体制のもと職務を遂行していただきたいと、切に要望する。

以上